



札幌部会(第13回)

日時:	2015年5月16日(土) 14:30-17:00
場所:	Sapporo55ビル 5階 キャリアバンクセミナールーム
参加者:	野間(同志社大)、濱地(道教大札幌校)、川瀬(札幌清田高)、松澤(札幌開成中等)、佐藤(札幌東陵高)、山下(札幌市立簾舞中)、兼間(札幌市立常盤中)、大浦(札幌市立新琴似中)、竹内(日高町立日高中)、吉岡(北見市立東陵中)、山崎(北見北斗高)[順不同]

【内容要旨】

- 各参加者より、近況報告が行われた。
 - 野間先生より、年次大会や他部会の報告が行われた。そして、「夏の経済教室」のプログラムに基づき、兼間先生が大阪中学の部で、山崎が東京高校の部において、実践紹介を行う旨の紹介があった。また、埴先生(東京都立府中東高)作成の「社会の幸せを経済で考える」と「時間の経済学」の学習指導案が配布され、大阪部会での議論内容が説明された。
 - 山崎より、中等社会科教育学会のジャーナル『中等社会科教育研究』第33号に掲載された論文の抜刷「『経済的な見方や考え方』を深める農業問題の授業開発」を配布し、「何をもって『経済的な見方や考え方』を深めたといえるのか」ということについて問題提起を行った。楽しい授業を作ることは、新井先生の『経済の考え方がわかる本』(岩波ジュニア新書)などを参考にすれば、それほど難しいことではない。それよりも、授業の結果、「何をもって『経済的な見方や考え方』を深めたといえるのか」を明らかにすることの方が難しい。このため、一つの方法として、生徒一人ひとりが「具体的にどのような経済概念を使って認識を深めたか」という観点から、生徒の使用した経済概念を数字で拾うという方法を本論文では用いた。説明後、「経済的な見方や考え方」の定義について質疑応答が行われたり、北海道社会科教育連盟でも、このように「何をもって『見方や考え方』を高めたといえるのか」という議論が必要ではないかという意見が出されたりした。
- ※ この他、同学会より近日刊行予定の『中等社会科 21世紀型の授業実践 -中学校・高等学校の授業改善への提言-』という書籍に、昨年、東京部会と札幌部会で報告した地理の授業実践が掲載される旨の紹介を行った。
- 川瀬先生より、「札幌部会レジュメ」に基づいて、経済教育のあり方に関する「そもそも論」の私論や、学年集会の講話の報告、北海道ネタの課題と可能性について、説明が行われた。川瀬先生は、「私の教えたいこと、私のこだわり」として、①「変化に対応できる思考力を持たせるために、変化を感じ取る力を身に付けさせること」、②「視点を定めさせ、知識や技術を、技量や技法にかえる術を身に付けさせること」、③「教師自身が自ら学ぶことにより、経済を学ぶおもしろさを伝えること」の三点を挙げた。この後、東京部会に倣う形で、札幌部会でも「そもそも論」について自由討論が行われた。



<主な発言の要旨>

(山下): 山崎論文の一部分と同じようなことを考えてきた。それは、「社会科の目標は『社会認識を通して市民的資質を育成すること』である。社会認識とは、自前の概念装置を用いてもものを見たり考えたりすることである。この概念装置を駆使することで、肉眼では見えない様々な事柄が見えるようになる」という箇所。

(松澤): 経済教育の前に、そもそも教育とは何か、なぜ学ぶのか、ということを考えなければならない。となると、最後は「お金の使い方」を学ばせるということに行き着くのかなと。

(竹内): 特別支援の生徒たちにも、家庭科でも、「お金の使い方」を教えることは重要なことと考える。

(吉岡): 「思考力・判断力・表現力」のうち、思考力を重視してきた。歴史を動かしてきたものは、お金ではないだろうか。現在、歴史を教えているけれども、生徒からは、先生はお金の話ばかりだと言われる。

(山崎): 小学校の先生の視点では下(幼少期)からの積み上げの視点で考えるし、大学の先生の視点からでは上(ゴール)からの視点で考えるから様々でないかと。例えば、経済学者で初めて経済教育に発言をした高島善哉は、「社会改造をするために社会科学を学ぶ必要がある」ということを言ったが。

(野間): 篠原代表による経済教育ネットワークの設立趣旨は、経済学部に進まない子にとっては最後の経済教育になるので、少しでも質の高い経済教育ができたらというものだった。私は、「交換の利益」と「ノーフリーランチ」の二つが柱になると思っている。「機会費用」なども、この二つにくっつけられるのではないか。

(濱地): 私も、経済とは「分業」と「交換」を理解することだと学生たちによく言っている。

※ 最後に、野間先生から、討論に関連した情報提供という形で、大竹先生の『経済学のセンスを磨く』(日経プレミア新書)が紹介された。また、野間先生や大竹先生などの同世代の経済学者には、陸上や卓球など個人スポーツをやっていた人が多く、もしかしたら、経済学者には個人主義な人が多いのかもしれないということで話が打ち切りとなった。

(文責: 北海道北見北斗高等学校 山崎 辰也)

次回開催予定: 9月12日(土) 14:30~17:00。場所はSapporo55ビル5階キャリアバンクセミナールーム。議題は、「夏の経済教室」における実践紹介の振り返り、参加者からの活動報告、その他。